妙安寺だより　294号

一年の計は元旦にあり

『一年の計は元旦にあり』などというように、一年の節目として、日本人は正月をことのほかに大切にしてきました。
正月には年神様という新年の神様が、各家庭に降りてくると考えられ、その年の幸運を、授けてもらうために、さまざまな習慣が定着しました。
現在、多くの伝統的な習慣が、忘れられていくなかで、初詣や雑煮を食べる習慣など、正月行事は、いまだに多くの
日本人が、大切に守り続けています。

初日の出

その年の最初に昇ってくる太陽を拝み、一年の幸運を祈るために、今でも多くの人々が、宵のうちから家を出て、見晴らしのよい場所にでかけたりしています。
これはかって、初日の出とともに「年神様」が現れると、信じられていたことに由来します。
年神様は新年の神様であり、「正月様」「歳徳神(としとくじん)」ともいって、年の初めに一年の幸せをもたらすために、降臨してくると考えられていたのです。
初日の出を拝む場所は眺めのよい山、海岸などさまざまですが、特に高い山頂で迎える太陽を「御来光」といいます「御来光」と呼ぶのは、山頂近くの雲に映った自分の影が、まるで光の輪を背にした仏の像に見えたためで、仏の「御来迎(ごらいごう)」との語呂合わせで「御来光(ごらいこう)」と呼ばれるようになったといわれます。
初日の出を拝む習慣は、明治以降盛んになったといわれ、それ以前は、年神様を迎えるために家族で過ごし、「四方拝」といって東西南北を拝んでいました。

門　松

新年を迎える際に、年神様が降りてくるときの目印として、木を立てたのが始まりといわれています。
門前の左右に一対並べるのが一般的で、玄関に向かって左側の門松が雄松、右側を雌松と呼びます。
「門松」に用いる木としては、日本に多く生えている松を使います。
これは、古くから神が宿る木と考えられていたためです。
また、松は薬用にすれば、血圧を下げる働きをします。
たとえば、松ヤニは少量のアルコールに浸して松酒にして飲むと、血圧を下げるといわれています。
そのような意味から、松は不老長寿の薬でめでたい木だと思われて、門に立てられたのです。
さらにここに、真っ直ぐに節を伸ばす竹が、長寿を招く縁起物として添えられました。
ちなみに、「門松」は12月28日頃に立てるのがよく、29日に立てるのは「苦立て」といい、31日ギリギリに立てるのは「一夜飾り」といって、いずれも嫌います。

1月･2月の行事案内

1月1日･2日･3日　午後1時より　「太歳三ガ日祈願･回向」
※１２月３１日までにお申し込み下さい。
なお、平成２１年より、祈願料並びに回向料は、1祈願、1霊位につき３，０００円になりました。
1月18日(日)　午後1時より　お鏡開き･大黒天神祭
2月　1日(日)　午前11時より　節分会･星祭り、方除け祈願祭
※1月31日までにお申し込み下さい。
なお、古いお札、お守りなどは、当日の午前中までにお持ち下さい。

平成21年度地涌の声　功徳主の募集

平成２１年度の地涌の声の功徳主を募集いたします。　功徳料は、１月につき（３００枚）　５，０００円です。
４月・７月・１２月について申し込み受付中です。「地涌の声」は寺報に同封して檀信徒へ送付しております。

テレフォン法話　092－751－6084　ご利用下さい